

第12回県民公開医療シンポジウム

21世紀の
メンタルヘルス

日時

2018/ **8/25** 土 14:00~16:00

場所

福岡国際会議場 (定員400名)
〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1 (TEL 092-262-4111)
受付13:00 開場13:30医療法人社団益豊会今宿病院
理事長・院長

深堀 元文

プログラム

① 開会のことば

公益社団法人福岡県病院協会 会長 九州大学病院 病院長

赤司 浩一

② シンポジウム

座長 医療法人社団益豊会今宿病院 理事長・院長

深堀 元文

福岡県精神医療センター太宰府病院 院長

小嶋 享二



講演 1

「うつ病について」

博多祇園メンタルクリニック 副院長

西浦 研志 先生



講演 2

「大人の発達障がいとは
～正しい理解と支援のために～」

福岡市精神保健福祉センター 所長(精神科医師)

本田 洋子 先生



講演 3

「認知症は怖い? 怖くない?」

田北メモリーメンタルクリニック 院長

田北 昌史 先生

③ 質疑応答

公益社団法人福岡県病院協会 副会長

竹中 賢治

④ 閉会のことば

地方独立行政法人福岡市立病院機構 理事長
福岡市民病院 名誉院長

主催：公益社団法人福岡県病院協会

後援：福岡県、福岡市、(公社)福岡県医師会、(公社)福岡県薬剤師会、(公社)福岡県看護協会、(公社)福岡県栄養士会、(公社)福岡県診療放射線技師会、(公社)福岡県理学療法士会、(公社)福岡県作業療法協会、(一社)福岡県歯科医師会、(一社)福岡県臨床衛生検査技師会、(一社)福岡県私設病院協会、(一社)福岡県精神科病院協会、(一社)福岡県医療法人協会、(一社)福岡県精神神経科診療所協会、(一社)福岡市医師会、(一社)筑紫医師会、(一社)粕屋医師会、(一社)糸島医師会、(一社)宗像医師会、(一社)福岡県病院薬剤師会、福岡県精神保健福祉協会、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、朝日新聞社、日本経済新聞社西部支社、NHK福岡放送局、(株)福岡放送、RKB毎日放送、(株)テレビ西日本、九州朝日放送、TVQ九州放送(順不同)

公益社団法人を(公社)、一般社団法人を(一社)と省略させていただきます。

連絡先 公益社団法人福岡県病院協会

TEL:092-436-2312 FAX:092-436-2313

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号
福岡県メディカルセンタービル 2階

(公社)福岡県病院協会とは…

昭和25年に設立され、「病院の経営管理の向上を図り、地域医療の普及向上と、県民の健康増進に寄与すること」を目的に、各種教育研修会などを実施しています。会員は、県下の4大学病院など、公私の250病院が加入しています。



ACCESS 電車でお越しの場合

- 地下鉄呉服町駅より 徒歩12分
- 地下鉄中洲川端駅より 徒歩15分
- 西鉄天神駅より 徒歩22分
- 地下鉄天神駅より 徒歩22分

目 次

ご挨拶	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	公益社団法人福岡県病院協会 会長 九州大学病院 病院長	赤司 浩一
開催にあたって	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	第12回県民公開医療シンポジウム 運営委員長 医療法人益豊会今宿病院 理事長・院長	深堀 元文
座 長	医療法人益豊会今宿病院 理事長・院長 福岡県立精神医療センター太宰府病院 院長	深堀 元文 小嶋 享二
講演1	「うつ病について」 ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	博多祇園メンタルクリニック 副院長	西浦 研志 先生
講演2	「大人の発達障がいとは」 ・・・・・・・・・・・・・・・・	7
	～正しい理解と支援のために～ 福岡市精神保健福祉センター 所長（精神科医師）	本田 洋子 先生
講演3	「認知症は怖い？怖くない？」 ・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	田北メモリーメンタルクリニック 院長	田北 昌史 先生
質疑応答	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
閉会のことば	公益社団法人福岡県病院協会 副会長 地方独立行政法人福岡市立病院機構 理事長 福岡市民病院 院長	竹中 賢治

ご 挨拶

公益社団法人 福岡県病院協会

会長 赤 司 浩 一

(九州大学病院 病院長)



本日は、残暑厳しく、また、お忙しい中、「第12回県民公開医療シンポジウム」にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

福岡県病院協会は、地域医療の普及向上と県民の皆様の健康増進に寄与することを目的に、1950年（昭和25年）全国に先駆けて設立され、2013年（平成25年）4月からは公益社団法人として活動しております。

「県民公開医療シンポジウム」は、当協会が公益目的事業の一環として2007年（平成19年）から毎年県内各地で開催しているものであり、本年度で12回目となります。

今回のシンポジウムでは、「21世紀のメンタルヘルス」をテーマとして、うつ病、発達障害及び認知症を取り上げました。うつ病は、現役世代のかなりの方が発症する病気であり、認知症も、現役世代で発症する若年性のものが一般にも知られるようになっていきます。また、発達障害も近年、その多様性や特性が徐々に認識されてきています。いずれも、私たちの身近にある疾患や障がいですが、広く県民の皆様に理解が浸透しているとはまだいえない状況にあると思われます。

本日は、それぞれの分野で豊富な経験と高い知見をお持ちの先生方にご講演いただきます。どのお話も、大変興味深いお話になるものと期待しております。また、講演終了後には、皆様方からのご意見や質問をお受けして先生方がお答えする「質疑応答」の場も設けております。これを機に、メンタルヘルスについての皆様の理解が深まれば、幸いに存じます。

最後になりますが、当協会は、県民の皆様に医療や医療制度を正しく理解いただけるよう、活動を続けて参ります。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

開催にあたって

第12回県民公開医療シンポジウム運営委員長
医療法人社団益豊会 今宿病院 理事長・院長
深 堀 元 文



本日は、第12回県民公開医療シンポジウムにご参加いただきありがとうございます。
わたくしども、福岡県の250あまりの病院が加盟しております福岡県病院協会
では、毎年一回、県民の皆様には正しい医療情報を提供すべく大々的な県民公開シン
ポジウムを開催しております。

近年、うつ病や認知症などの精神疾患は急激に増加しており、世界保健機構
WHOによりますと、現在世界中の4人に1人は生涯に1回以上何らかの精神疾患
に罹患しているとされています。我が国でも、うつ病は約600万人、認知症はその
前段階の軽度認知障害まで含めるとすでに約800万人を超えていると言われてい
ます。また、最近特に注目されてきているアスペルガー症候群やADHDといった発
達障害は何かと誤解されることの多い生まれつきの特性なのです。その特性を周り
が理解することで、当事者もご家族も大いに救われるのです。

そこで、今回は、『21世紀のメンタルヘルス』と題しまして、今、注目されてい
るメンタル系の三つの病態に関しまして、それぞれのエキスパートである先生方よ
り、なるべくわかりやすくお話ししていただくことに致しました。

講師の先生は、一題目のうつ病につきましては、博多祇園メンタルクリニック副
院長の西浦研志先生、二題目の発達障害につきましては、福岡市精神保健センター
所長の本田洋子先生、三題目の認知症につきましては田北メモリーメンタルクリニック
院長の田北昌史先生といったいずれも高名な先生がたです。

司会進行は、わたくしと福岡県精神医療センター太宰府病院院長の小嶋亨二先生
が担当させていただきます。

それぞれの講演についてご質問をお受けいたしますので、疑問に思われたことは
遠慮なくおたずね下さい。

わずか2時間余りという短いお時間ではございますが、うつ病、認知症の病態や
治療あるいは予防といった点や、発達障害とはどういうものでどのように接してい
たらよいのかといったことに関しまして、皆様がたのご理解ご関心が深まりますこ
とを願ひまして、ご挨拶とさせていただきます。

21世紀のメンタルヘルス

座 長

医療法人社団益豊会今宿病院 理事長・院長

深堀 元文

福岡県立精神医療センター太宰府病院 院長

小嶋 享二

うつ病について

博多祇園メンタルクリニック 副院長
西浦 研志 先生



1) うつ病が増えている

1970年代に医学教育を受けた演者が学んだ精神医学教科書には、うつ病患者の罹患率は0.4%である、と記載されていた。最近、それが3%弱に書き直された。2000年における、日本の疫学調査では生涯有病率7%と推計された。うつ病患者数は現在、100万を超えた、と推定される。

1980年代から、精神科診療所の増加と軌を一にして、外来受診する患者のほとんどは、うつ病、としての治療を受けるようになっていく。以下に記すように、診断分類から「神経症」が消えて、その大部分が、うつ病に組み込まれてしまったのも、うつ病患者の数が増えた要因の一つである。

2) うつ病概念の変化、拡がり

半世紀前までの伝統的精神医学では、うつ病の主体は原因不明の「内因性うつ病」とされ、その周辺に、沈み込みのきっかけが明らかな「神経症性うつ病」があった。治療の軸は時間であり、薬はのまなくても、自殺しなければ自然に治る、とされていた。ところが、うつ病のきっかけ探しはうまくいかないときも多い。1980年アメリカ精神医学会の提唱により、新しい精神疾患分類が提唱され、うつ病、と診断するには、きっかけ探しを止めて、幾つかの症状が揃えばうつ病、として良くなった。現在の日本でも、この分類に従った治療方針が主流である。

実は、精神疾患の全体に軽症化の波があり、入院を要する、自殺念慮が明らかな、うつ病患者は目立たなくなった。都市部のサラリーマンが抱える悩みは仕事によるストレスであり、上司との折り合いの悪さである。こうした人びとが精神科診療所を訪れ、通院治療を受けている。ときには、抑うつよりも、苛立ちが前面にあり、治療も滑らかには運ばない。以前のような、自責傾向、他人への気遣いは少なく、病休を気軽に取る、こうした若者に対して、職場では非難がましい声も聞こえて

くる。

さらに、1990年代末に新規の抗うつ剤が導入され、うつ病の治療は薬物療法が主体になった。薬会社による、心の風邪の早期治療キャンペーンは自殺予防とも連動した。しかし、21世紀になり、薬物療法の限界が指摘されつつある。

3) マスメディアで再生産されている、誤ったうつ病イメージ

前世紀に比べて、罹患率が10倍に増えた、全てのうつ病像をすっきりと説明できる、包括的なうつ病の成り立ち、対応法は見つかっておらず今でも模索の段階である。しかし、メディアでは単純な説明を求める。そして、実態からずれた、うつ病像、その対応法が行き渡るようになった。

・几帳面で真面目な人がうつ病になる、という思い込み

病前性格と組み合わせて、精神疾患の成り立ちを説明する試みは、精神医学の表舞台から裏側に隠れた。それでも、この組み合わせ理解方式は拡がったままである。

真面目でなくてもうつ病になり得る。性格改造を治療目標にするのは無理である。うつ病になるひとの性格は多岐にわたると考えるのが良いし、患者本人が変わるよりも周りがその人の持ち味に合わせる方が問題解決には早道だ。

・うつ病の人を励ましてはいけない、という思い込み

たしかに、極期のうつ病のひとを励ますと、「周りは元気を出せ、と励ますが、これ以上は頑張れない」として非現実的な解決法に走ってしまう事態が起きかねない。しかし、回復期の治療では、慢性疾患としてのリハビリテーションが大切になる。そうした時期には、周囲からの支え、励ましも欠かせない。引きこもりがちな患者の背中を後ろから支え、ときにはそっと押してあげるのが良い。

4) うつ病は生体の危機反応

生体の内外で起きた嵐への警戒信号として、うつ病を理解してみよう。患者の世代、環境により、さまざまな病像を示す。エネルギー水準を下げ過ぎた状態から、元の生活リズムを取り戻すのには、まず、睡眠、食事のリズムの規則性を回復する。そのために、自分でやれる、うつ病対策はあるのか。かかりつけの内科、婦人科の先生の助言によっては、近くの精神科を受診する選択肢も加えよう。

シンポジウム当日は、人の一生を高齢期から、大人、若者、こども、と遡りながら、さまざまなうつ病、うつ状態の事例を紹介する。

略 歴

1972年 九州大学医学部卒業
1986－2000年 公立学校共済組合九州中央病院精神科部長
2000－2011年 福岡市精神保健福祉センター所長
2011－2013年 奥村日田病院長
2013年－ 博多祇園メンタルクリニック

手に入りやすい新書版 参考書籍

新版 うつ病をなおす 講談社現代新書 野村総一郎 2017年 760円
うつの常識、じつは非常識 ディスカヴァー携書 井原裕 2016年 1,000円

医療関係者の方向き

うつ病医療の危機 日本評論社 宮岡等 2014年 2,000円

講演 2

大人の発達障がいとは ～正しい理解と支援のために～

福岡市精神保健福祉センター 所長

本田 洋子 先生



ここ数年、精神科医療や療育の現場だけでなく、広く地域社会やマスコミでも「発達障がい」「自閉症スペクトラム」「ADHD」という言葉を耳にすることが多くなりました。以前から子どもの発達障がいに関しては、小児科医、児童精神科医によって診断され、療育センターや特別支援学校、特別支援学級で適切な療育が行われて来ましたが、近年は教育現場で対応を求められる発達障がい児が急増しているため、診断・治療や支援の更なる充実が求められています。それに加えて最近では、大学生や社会人になるまではほぼ問題なく過ごされて来た成人の発達障がいの方が、大人になって初めて発達特性による生きにくさを自覚して苦しんだり、ご家族や職場の方々が対応に苦慮したりするケースが目立って来たようです。「仕事のミスが多い自分はADHDではないか」「話が通じない夫は自閉症スペクトラムではないか」「営業の部署に異動して以来不適應になった部下にどう接したらいいか」などのご相談が医療機関や支援機関に増えており、発達障がいのスクリーニング、診断、相談、支援の拡充が早急に望まれています。

そもそも発達障がいとはどのような障がいなのでしょうか。平成17年に施行された「発達障害者支援法」では、「発達障害とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」と定義されています。現在では、精神疾患の分類や診断基準の変化により「神経発達症群」の状態像のいくつか（自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症ほか）が該当するとされています。発達障がいの概念としては、生まれつきの脳の脆弱性を基盤とし、発達の遅れではなく顕著な偏り（杉山登志郎による発達凸凹）を有しているために、適応不全（社会での生き辛さ）を抱えていることとされています。では、発達障がいの「症状」というよりも「特性」によって起きてしまう、ご本人の困りごとや周囲の戸惑いは具体的にどのようなものがあるのでしょうか。そして、発達障がいの併存疾患、鑑別疾患、二

次障害（発達障がいがもとになり新たに引き起こされる問題）にはどんなものがあり、スクリーニングと診断，治療はどのようになされているのでしょうか。さらに，発達障がいの方がご自身の特性を活かして生きていくためのヒントはあるのでしょうか。また，ご家族や職場の方々がご本人を正しく理解し適切に支援するポイントにはどのようなものがあるのでしょうか。

今回の講演では，これらの問題を皆様にわかりやすくお話したいと思います。

略 歴

平成17年 3月 福岡大学医学部卒業
平成19年 4月 福岡大学医学部精神医学教室入局
福岡大学病院精神神経科 医員
平成24年 4月 日明病院 常勤医
平成25年 4月 福岡大学病院精神神経科 助教
平成29年 4月 現職

資 格

医学博士
精神保健指定医
日本精神神経学会 専門医・指導医
日本児童青年精神学会 認定医
日本医師会認定産業医

認知症は怖い？怖くない？

田北メモリーメンタルクリニック 院長

田北 昌史 先生



日本では 65 歳以上の高齢者の方が現在人口の 25% 以上になりました。高齢者全体に占める認知症患者の割合は近年の調査では約 15% となって、認知症の患者数は 2025 年には 700 万人になると予想されています。

認知症の患者さんの増加のスピードは急激で、このため医療面だけでなく、深刻な社会問題になっています。そして認知症は高齢になって発症するので、将来自分の親、配偶者、そして自分になるのではないかと大変怖がられています。

認知症はアルツハイマー型認知症と血管性認知症が代表的です。さらに近年注目されるのがレビー小体型認知症です。レビー小体型認知症は「子供が見える」「猫がいる」のような幻視や抑うつ、大声の寝言などの精神的な症状や手が震えるというパーキンソン症状などが出現します。また初期には物忘れが目立たない場合もあり、注意が必要です。

認知症の 60% と言われるアルツハイマー型認知症は基本的にゆっくり進行します。アルツハイマー型認知症かと思っても、急に進む場合は脳腫瘍などの身体の病気も疑う必要があります。

また高齢者の場合、睡眠剤や頻尿の治療薬、パーキンソン病の薬などの色々な薬を服用していることが多いのですが、それらの薬で認知症のような状態になることもあり、注意が必要です。

認知症の治療は記憶の障害や見当識障害などの認知機能の低下である中核症状と不眠や興奮などの精神的な症状（BPSD）に対しての治療が必要です。

認知症の治療法としては薬を使う方法と使わない方法があります。どちらも長所と短所がありますので、患者さんの状態や環境に合わせて、柔軟に対応することが必要です。

BPSD に対する薬物療法は抗精神病薬の投与がされますが、眠くなるや身体の動きが悪くなるなどの副作用が出現する場合があります。少し控えめに投与した方が良い

ことでしょう。

またアルツハイマー型認知症の進行抑制には現在日本では4種類の薬が使用されています。これらの薬は物忘れを治すことはできませんが、認知症の進行を抑制し、元気な生活を送れる時間がより長くできる効果はあります。長生きの薬と考えて下さい。また4種類の薬は色々特徴があり、その長所を生かして使用します。

また認知症の介護は育児と異なり、最近始まったことです。「家族は隠れた患者」という言葉もあり、ご家族は色々と苦勞があります。ご家族をいかにサポートするかも重要な課題です。ご家族に過度に患者さんに優しくするように勧めると、まじめなご家族ほど自分を責め、うつ状態に陥ったりすることがあります。私は「介護はトムとジェリー」で仲良く喧嘩しながら行うように勧めています。

認知症、特にアルツハイマー型認知症というと「治らない病気」というイメージがありますが、現在はその進行を抑制することが可能になってきています。

お薬を使う治療、使わない治療を上手く活用しながら患者さんやご家族の平穏な生活を維持していくことが大切で、正しく知識を持てば決して怖がらなくて良い病気です。

略 歴

昭和58年3月 九州大学医学部卒業、九大放射線科入局
昭和60年6月 九大精神科入局
平成3年6月 九州大学医学部神経精神医学教室文部教官助手
平成7年4月 今津赤十字病院精神科
平成18年4月 同副院長
平成20年5月 田北メモリーメンタルクリニック開業 現在に至る

福岡大学病院

病院長 井上 亨

〒八二四-〇一八〇

福岡市城南区七隈七丁目45番1号

電話 (〇九二)一八〇一-一〇一一

FAX (〇九二)一八六二-八二〇〇

URL <http://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>

九州大学病院

病院長 赤司 浩一

〒八二二-八五八二

福岡市東区馬出3丁目1番1号

電話 (〇九二)一六四一-一一五一(代表)

FAX (〇九二)一六四二-五〇〇八

URL <http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp>

医療法人社団 益豊会 今宿病院

理事長
院長 深堀 元文

〒八一九-〇一六七

福岡市西区今宿2丁目12番7号

電話 (〇九二)一八〇六-〇〇七〇

FAX (〇九二)一八〇六-四四一七

地方独立行政法人 福岡市立病院機構 福岡市民病院

院長 桑野 博行

〒八二二-〇〇四六

福岡市博多区吉塚本町13番1号

電話 (〇九二)一六三二-一一一一

FAX (〇九二)一六三二-〇九〇〇

E-mail shiminbyoin@fcho.jp

URL <http://www.fcho.jp/shiminhp/>



医療法人 原三信病院

理事長
院長

平 祐二

〒八一二一〇〇三三

福岡市博多区大博町1番8号

電話 (〇九二)―二九一―三四三四

FAX (〇九二)―二九一―三四二四

URL <http://www.harasanshin.or.jp/>

福岡県立精神医療センター
太宰府病院



院長 小嶋 享二

〒八一八一〇一二五

太宰府市五条3丁目8番1号

電話 (〇九二)―九二二―三三三七

FAX (〇九二)―九二四―四〇六〇

E-mail info@dazai-fu-hsp.jp

URL <http://www.dazai-fu-hsp.jp>



医療法人社団 福光会
福田眼科病院

院長 江島 哲至

〒八一四一〇〇一三

福岡市早良区藤崎二丁目二四番一号

電話 (〇九二)―八四一―二三四五

FAX (〇九二)―八四一―二六四九

E-mail fukudaganka@nifty.com

URL <http://www.fukudaganka.jp>

独立行政法人 国立病院機構
小倉医療センター

院長 澄井 俊彦

〒八〇二一八五三三

北九州市小倉南区春ヶ丘10番1号

電話 (〇九三)―九二二―八八八一

FAX (〇九三)―九二二―五〇七二

URL <http://www.kokura-hp.jp>

医療法人ユーアイ

西野病院

理事長
院長

西野 豊彦

〒八二〇-〇二〇六

福岡県嘉麻市鴨生532番地

電話 (〇九四八) - 四二二 - 一一一四

FAX (〇九四八) - 四二二 - 四七九〇



医療法人

救急病院 開放型病院 臨床研修病院 指定 西福岡病院

日本医療機能評価機構認定病院



理事長

安藤 文英

院長

中垣 充

〒八一九-八五五五

福岡市西区生の松原3丁目18番8号

電話 (〇九二) - 八八一 - 一一三三

FAX (〇九二) - 八八一 - 一一三三

E-mail jim@nishikuni.or.jp

URL http://www.nishikuni.or.jp

介護老人保健施設 西寿 ☎092-892-3060
居宅介護支援事業所 ケアプランサービス ☎092-881-1561
訪問看護ステーション ふよう ☎092-881-1299
ヘルパーステーション生きがい ☎092-881-1578

国家公務員共済組合連合会

新小倉病院

病院長

渋谷 恒文

〒八〇三-八五〇五

北九州市小倉北区金田1丁目3番1号

電話 (〇九三) - 五七一 - 一〇三一

FAX (〇九三) - 五九一 - 〇五五三

E-mail kkr-shinkokura@shin-kokura.gr.jp

URL http://www.shin-kokura.gr.jp



社会福祉法人 財団法人 福岡県済生会支部

福岡県済生会二日市病院

日本医療機能評価機構認定病院・地域医療支援病院・災害拠点病院

院長 間野 正衛

〒八一八-八五一六

筑紫野市湯町三丁目13番1号

電話 (〇九二) - 九二三 - 一五五一

FAX (〇九二) - 九二四 - 五二一〇

E-mail info@saiseikai-futsukaichi.org

URL http://www.saiseikai-futsukaichi.org



〒八一〇―八五三九
福岡市中央区長浜3丁目3番1号
電話 (〇九二)―七二一―〇八三一
FAX (〇九二)―七二四―三二六二
E-mail info@hamanomachi.jp
URL http://www.hamanomachi.jp

国家公務員共済組合連合会
浜の町病院
病院長 一宮 仁

地域医療支援病院

飯塚病院
innovate and evolve

院長 増本 陽秀

〒820-8505 飯塚市芳雄町3番83号

TEL 0948-22-3800

FAX 0948-29-5744

http://aih-net.com



〒八一―二二三三
糟屋郡志免町別府北2丁目12番1号
電話 (〇九二)―六二一―二八〇二
FAX (〇九二)―六二三―二二四七
URL http://nakabaru-hp.jp/

一般社団法人 福岡県社会保険医療協会
社会保険仲原病院
病院長 岡嶋 泰一郎

精神科・神経精神科・老年精神科・心療内科・内科・歯科・歯科口腔外科

医療法人済世会 **河野病院**

理事長 河野 正美
院長 今泉 暢登志

〒八一―二四一三
糟屋郡篠栗町大字尾仲139
電話 (〇九二)―九四七―〇六一一
FAX (〇九二)―九四七―八五九八
E-mail info@kawano-hp.com
URL http://www.kawano-hp.com
関連施設：河野名島病院 河野粕屋病院

医療法人社団 江頭会

さくら病院

理事長
院長 江頭啓介

〒八二一〇一四三
福岡市城南区南片江6丁目2番32号
電話 (〇九二)一八六四一・一二二〇
FAX (〇九二)一八六五・四五七〇
E-mail info@sakurahp.or.jp
URL <http://www.sakurahp.or.jp/>

医療法人社団 水光会

宗像水光会総合病院

理事長
院長 津留英智
田山慶一郎

〒八二一〇三二九八
福岡市日蔭野5丁目7番地の1
電話 (〇九四〇)一三四・三一一一
FAX (〇九四〇)一四三・五九八一
E-mail hosp@suikokai.or.jp
URL <http://www.suikokai.or.jp>



地域医療支援病院
日本医療機能評価機構認定病院

宗像医師会病院

院長 伊東裕幸

〒八二一〇三四三一
宗像市田熊五丁目5番3号
電話 (〇九四〇)一三七・一一八八
FAX (〇九四〇)一三七・〇〇一六
URL <http://www.mmah.jp>



地方独立行政法人 福岡市立病院機構

福岡市立こども病院

院長 原寿郎

〒八二一〇〇一七
福岡市東区香椎照葉5丁目1番1号
電話 (〇九二)一六八二・七〇〇〇
FAX (〇九二)一六八二・七三〇〇
E-mail f-kodomo@fcho.jp
URL <http://www.fcho.jp/childhp/>



〒八二二-〇〇〇一
直方市大字感田523番地5
電話 (〇九四九) 一二六-二三一一
FAX (〇九四九) 一二六-六七四八
E-mail main@fukuoka-jcho.go.jp
URL <https://fukuoka.jcho.go.jp>

院長 松本高宏

独立行政法人 地域医療機能推進機構 福岡ゆたか中央病院

聖マリア病院

理事長 井手 義雄

病院長 島 弘志

〒830-8543 福岡県久留米市津福本町 422 番地
電話 (0942)35-3322 FAX (0942)34-3115

聖マリアヘルスケアセンター

理事長 井手 義雄

病院長 井手 睦

〒830-0047 福岡県久留米市津福本町 448 番 5
電話 (0942)35-5522 FAX (0942)34-3306

 社会医療法人 雪の聖母会



古賀病院グループ

■ 新古賀病院 久留米市天神町 120
0942-38-2222

■ 古賀病院 21 久留米市宮ノ陣 3-3-8
0942-38-3333

■ 新古賀クリニック 久留米市天神町 106-1
0942-35-2485

■ 野伏間クリニック 久留米市野伏間 1-9-3
0942-26-0066

■ 辺春診療所 八女市立花町上辺春 1080
0943-36-0010

■ 高齢者総合福祉施設
こがケアアベニュー 久留米市宮ノ陣 4-30-10
0942-38-2525

■ 介護老人保健施設こが 21 久留米市宮ノ陣 3-3-9
0942-38-3386

天神会 久留米

検索



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

〒八二五-八五五五
福岡市南区大楠3丁目1番1号
電話 (〇九二) 五二一-一二一一
FAX (〇九二) 五二二-三〇六六
URL <http://www.fukuoka-med.jrc.or.jp>

院長 寺坂禮治

福岡赤十字病院

医療法人 徳洲会

福岡徳洲会病院

院長 海江田 令次



〒八一九一〇八六四
福岡県春日市須玖北4丁目5番地
電話 (〇九二)―五七三―六六二二
FAX (〇九二)―五七三―一七三三
URL <http://www.f-toku.jp>



日本郵政株式会社

福岡逓信病院

院長 津田 泰夫

〒八二〇一八七九八
福岡市中央区薬院二丁目6番11号
電話 (〇九二)―七四一―〇三〇〇
FAX (〇九二)―七八一―二五六三
URL <http://www.hospital.japanpost.jp/fukuoka>

公立学校共済組合

九州中央病院

病院長 前原 喜彦



〒八一五一八五八八
福岡市南区塩原三丁目23番1号
電話 (〇九二)―五四一―四九三六
FAX (〇九二)―五四一―四五四〇
URL <http://kyushu-ctr-hsp.com/>

早良病院

院長 梅野 守男

〒八一九一〇〇〇二
福岡市西区姪の浜2丁目2番50号
電話 (〇九二)―八八二―〇一四三
FAX (〇九二)―八八三―八七六一
URL <http://www.sawara-hp.jp>



社会福祉法人 財団法人 福岡県済生会

福岡県済生会飯塚嘉穂病院

院長 迫 康 博

〒八二〇-〇〇七六

飯塚市太郎丸二六五

電話 (〇九四八) - 一二二 - 三七四〇

FAX (〇九四八) - 一二九 - 一九八七

URL <http://iizuka-kaho.jp/>



一般社団法人 福岡県社会保険医療協会

社会保険田川病院

病院長 田 中 裕 穂

地域医療支援病院
地域がん診療連携拠点病院

〒八二六-〇〇二三

田川市上本町10番18号

電話 (〇九四七) - 四四 - 〇四六〇

FAX (〇九四七) - 四五 - 六五四〇

E-mail syomuka@s-tagawa-hp.tagawa.fukuoka.jp

URL <http://www.s-tagawa-hp.tagawa.fukuoka.jp/>



公益社団法人
福岡県病院協会